

日本カリキュラム学会 広報・若手育成委員会

第5回若手育成セミナー

歴史研究をどのように論文にするか

趣旨:

広報・若手育成委員会では、2026年2月15日(日)13:30~15:30(オンライン)に、「歴史研究をどのように論文にするか」をテーマとした検討会を開催いたします。カリキュラム研究のみならず、教育学研究において、制度や政策、教師や学習者の経験、地域や社会の教育文化などを歴史的視点から検討する「歴史研究」は重要な位置を占めてきました。歴史研究は、教育実践や制度の起源・変遷を明らかにするとともに、現代の教育課題を相対化し、教育思想や政策を問い合わせ直す上でも大きな意義をもってきました。

一方で、教育史研究の論文を執筆する際には、「歴史学研究としての厳密な史実検証」と「教育研究としての理論的・実践的意義づけ」という二重の要請の間に生じるジレンマがあります。史実に忠実であろうとすれば教育的解釈が後景化し、理論的・実践的意義を前面に出せば歴史学的厳密性が損なわれる可能性があります。この緊張関係をどのように乗り越え、教育史研究をカリキュラム研究としてどのように位置づけていくのかは、若手研究者にとっても避けて通れない重要な課題といえるでしょう。

本集会では、現在教育史研究に取り組んでいる、あるいは過去に論文を執筆した方々を登壇者として迎え、前半では、紀要編集委員より、教育研究の中における教育史研究の意義と位置づけについて説明をいただき、後半では、登壇者3名による事例発表を行います。発表では、そもそもの①歴史研究に取り組んだ理由、どのように受け止めているか、②研究テーマの立て方、③史料の探索と分析の実際、④どのように意味付けを行い論文としてのまとめ方について話題提供いただきます。

また、「歴史研究論文で何が課題となるか」「どのように研究を構築すべきか」といったテーマでブレイクアウト・グループに分かれ、参加者同士の意見交換を行います。本集会を通じて、若手研究者を中心に歴史研究の方法や意義、そしてカリキュラム研究としての方向性について検討を深める場としたいと考えています。ぜひお誘いあわせのうえ、ご参加ください。

日時:

2026年2月15日(日)13:30~15:30 ※13:20ごろから入室可。

形態:

Zoomによるオンライン配信

プログラム:

0. オープニング:10分(趣旨説明など)
1. 話題提供:20分
「カリキュラム研究における歴史研究の意義」(東京学芸大学 橋本美保)
2. 話題提供(2):40分
「歴史研究論文をどのように執筆したか(1)」(摂南大学 鎌田祥輝)
「歴史研究論文をどのように執筆したか(2)」(東洋大学 猪股大輝)
3. 論点整理＆グループでの対話:25分
4. 話題提供者とフロアとのディスカッション:20分
5. クロージング:5分

コーディネーター・司会:西岡加名恵(京都大学)、川口広美(広島大学)

参加費: 無料(会員以外の方でもご参加いただけます)

参加申込:

参加希望者は、下記のURLから参加申込を行ってください。

<https://forms.gle/xojy7BEMzndYniR7>

2月11日(水)を参加申込締切とします。

※上記で参加申込されると、ZoomミーティングのURL等の情報が提示・メール送信されますので、当日まで保存してください。

問い合わせ先:

西岡加名恵 (nishioka.kanae.2v@kyoto-u.ac.jp)